

ANNUAL REPORT 2024



Dialogue *for* People



Dialogue for People 2024

人権を基軸とした 取材・発信を 未来の社会のために

未来は現在の延長線上に、
そして現在は過去の積み重ねからできています。
日本軍の加害の歴史について
取材に訪れた東ティモールでは、
いまだ戦中の恐怖を語る人々の声を聞きました。
パレスチナで起きている虐殺や占領、
それに反対する声が排除されるドイツの取材では、
戦前から地続きの差別の影を色濃く感じました。
凄惨な過去の反省から生まれたはずの
「人権」という価値観は、
いまだこの社会に十分に根付いていません。

2025年は、今世紀に入り四半世紀となる年です。
人権を基軸とした取材・発信を行う
メディアNPOとして、世界規模の差別や排除、
身近なところに潜む構造的暴力といった
問題解決のために、今後ともみなさまと
一緒に歩んでいけましたら幸いです。

認定NPO法人 Dialogue for People
代表理事 佐藤慧





日本軍占領下で性暴力被害に遭った東ティモールの女性たちは少なくとも数百人規模とみられているが、実際に被害について証言を行っているのは20人。そしてその唯一の生存者がイネス・デ・ジェススさんだった。(東ティモール、2024年／安田菜津紀)



ヘブロン合意により街が分断され、2,000人以上のイスラエル軍人が駐留しているヘブロン市のH2地区に暮らすメルバット・サーディさんは、常に軍人や入植者の暴力に脅かされていると語る。(パレスチナ・ヨルダン川西岸地区、2024年／佐藤慧)



イスラエルによるパレスチナへの軍事侵攻に対し、ドイツで反戦活動続けるアメリカ出身ユダヤ人のレイチェル・シャピロさん(左)と、パレスチナ人(ドイツ国籍)のラムジー・キラニさん。(ドイツ、2024年／安田菜津紀)



「非暴力・不服従」を抵抗の理念としているイッサ・アムロさんは、ヘブロンに拠点を置くパレスチナ人の平和活動家だ。23年10月7日、イスラエル兵に連行され、10時間以上に及ぶ尋問・暴行を受けた。(パレスチナ・ヨルダン川西岸地区、2024年／佐藤慧)

ドイツ

「加害の記憶」と今



これまでの歴史を反省し国家ぐるみで取り組む「加害の記憶」の在り方には日本も見習うべき面が多くあるでしょう。一方で、2023年10月、イスラエルによるガザ地区への侵攻・虐殺が始まって以来、ドイツでは「反ユダヤ主義を許さない」という名目で「イスラエル批判」を封じる風潮が広がっています。そんなドイツの今を取材しました。

東ティモール

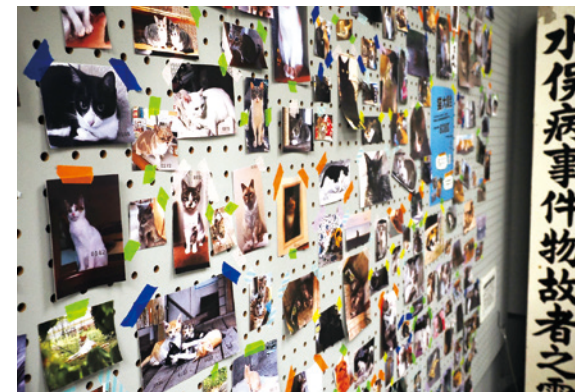
日本軍による加害の歴史



第二次世界大戦中には日本軍によって3年半に渡り占領・支配を受け、過酷な土木工事や「慰安婦」として虐げられた人々、命を落とした人も数え切れません。しかし、こうした戦争加害の歴史について、日本国内で十分継承されているとは言えない現状があります。加害の過去に向き合い、未来へとつなげるために――。現地を取材しました。

国策の犠牲

水俣病・福島第一原発事故・優生保護法



水俣病被害者の方々、福島第一原発事故と大熊町、そして優生保護法の裁判など、国家権力を背景とした様々な構造的暴力と、その犠牲となった人々の話を伺いました。ときとして国家の「大義」のために踏みつぶされる命や日常――。継続的に取材を続けています。

太平洋戦争

加害と被害の歴史



太平洋戦争期における加害の歴史の舞台は海外だけではなくありませんでした。戦時中に毒ガスの製造が行われていた広島県の大久野島、犠牲者の遺骨がまだ眠る沖縄、長崎の「被爆体験者」とその裁判――。各地に残る「痛み」に向き合い、その記憶を継承するために。加害の歴史と現地の声を伝えました。

REPORTING THEME IN 2024

2024年度の主な取材テーマ

このほかにも、人権に基いた様々な社会問題の取材を行っております。ぜひウェブサイトからご覧ください。



イラク

続く戦争と弾圧の被害



継続的に取材をしているイラク。今回は、シリアの混乱から逃れてきた方々のアサド政権崩壊後の思いや、「イスラム国」(IS)による迫害を受け国内避難民キャンプに身を寄せる女性たちによる活動、そしてフセイン政権によるクルド人に対する虐殺・民族浄化「アンファール作戦」について取材しました。

パレスチナ

推し進められる「民族浄化」



ガザで今この瞬間も続くジェノサイド。同時にヨルダン川西岸地区でも、イスラエルにより土地や権利が奪われ人間性を否定される「民族浄化」としか形容できない事態が進行しています。その根源にあるのは「人種差別」だと現地の平和活動家は言います。圧倒的な暴力の渦中にいる人々を取材しました。

差別と排除

人権を軸にした社会へ



本来すべての人々が普遍的に持っているはずの人権――。しかし残念ながら、いまだそうした人権は十分に社会へ根付いていません。群馬県桐生市の生活保護費の問題、社会福祉法人グロー元理事長による性暴力、そして在日コリアンをはじめ様々なルーツを持つ方々に対するヘイトクライム――。日本各地を訪れ取材しました。

入管収容問題

背景にある差別を問う

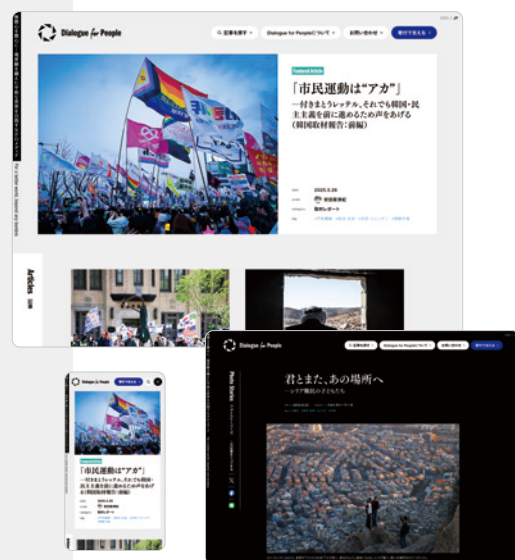


いまだ課題の多い日本の難民受け入れ、そして入管法と収容問題、それは「人権侵害」「差別」など様々なテーマと密接に関わっています。2024年度D4Pでは、都内に住む南アジア出身のムスリム女性に対する警察官による不当聴取問題や、入管で苦痛を訴えながら職員に放置され亡くなったカメルーン人男性の裁判など、これまでに続いて取材に注力してきました。

TOPICS 2024

さまざまな形で
「伝え」「届け」ました。

WEB RENEWAL ウェブサイト改訂



D4P
ウェブサイトは
こちら
Visit website



発信をさらに届けるために、 D4Pのウェブサイト进行全面リニューアル！

より広く、より見やすい形でD4Pの発信を受け取っていただくことを目指して、公式ウェブサイトの機能やデザインを2024年5月に一新しました。テーマやフリーワードなどから記事や動画を簡単に検索できる機能が加わり、過去の発信が見やすくなりました。同じく新たに加わったランキング一覧では、D4Pからのおすすめ記事や、週間・月間で特に読まれた人気記事をランキング形式で掲載し、ウェブサイトを訪れた方に多様な発信に触れていただけるよう工夫しています。これからもD4Pの発信をお届けしていく基盤の一つとして、新たなウェブサイトを活用してまいりますので、ぜひご覧ください。

◀新たなコンテンツ「フォトストーリーズ」では、取材の中で撮影した写真の数々を、撮影時のストーリーとともに掲載しています。

2024年度に最も読まれた記事



「生活保護を受けるくらいなら死んだ方がマシ」と思わせる福祉とは？
——桐生市だけの問題ではない排除の仕組み (2024/4/30公開)



「イスラエル批判」は「反ユダヤ主義」？
——パレスチナを巡り、ドイツで何が起きているのか (2024/4/17公開)



「これは氷山の一角」ヘイト繰り返す男に被害者の住所を伝達、3歳の娘を警官ら複数人で聴取
——これがなぜ「違法」ではないのか (2024/5/21公開)



日々誰かが「あっけなく」殺される社会
——パレスチナ・ヨルダン川西岸地区 (2024/3/6公開)

おすすめの特集



【パレスチナ特集】今、パレスチナに生きる声

問題の原点ともいえる差別や排除、歴史的な経緯や過去からの警鐘、そして地域ごとに受け継がれてきた豊かな文化など、パレスチナに関連する発信をまとめました。



夏休みに考える「世界のこと、わたしのこと」

中高生など10代の方々に読んでもらいたいコンテンツを紹介。社会問題と「わたし」の関係を考えるきっかけに。インターンの方々と制作しました。

PHOTO EXHIBITION 写真展開催

「パレスチナの猫」写真展 撮影：高橋美香、安田菜津紀



【1】バスターミナルで出会った猫のアイダ。西岸各地へと移動していく人々を見つめていた。(2023年12月／東エルサレム)
【2】旧市街地、ダマスカス門の検問所前。イスラエル兵たちも猫たちには朗らかに接していた。(2023年12月／東エルサレム)
【3】(2023年12月／ヨルダン川西岸地区・ジェニン難民キャンプ)
【4】(2023年12月／東エルサレム)

写真家の高橋美香さんと安田菜津紀、ふたりの出会ってきたパレスチナの猫たちの写真展を、全国各地の書店などで順次開催しました。長く占領下にあるパレスチナでは、人々が多くの不条理を経験しています。今回の写真展では、占領と、それによる暴力の傍らで生きる猫たちの姿をお伝えしました。2025年度以降も各地で開催いたします。

東京	2024年8月21日～9月1日	キャッツミャウブックス
大阪	2024年9月6日～10月16日	MoMoBooks
愛知	2024年10月31日～11月24日	ひとしずく
神奈川	2024年12月1日～12月10日	古民家ゆりいか

その他の写真展 「愛・いのち・平和展」 河内長野市立市民交流センター 2024年7月26日～27日

YOUTUBE YouTube動画配信

時事ニュースを生配信でお届けしている音声番組をはじめ、様々なコンテンツをお届けしています。



Radio Dialogue

今この瞬間に起きている時事問題から、構造的な問題まで、多彩なゲスト、そしてリスナーのみなさんと一緒に考えていきます。取材報告や、少し雰囲気の違いの記念放送も。



カルチャーから知る朝鮮半島のこと
朝鮮半島や、そこにルーツを持つ人々の文化への理解を広げていくシリーズです。エンタメや食など、様々なカルチャーを切り口にお送りします。



パレスチナに生きる声

イスラエル軍による虐殺が続くパレスチナ・ガザ地区。取材パートナーからのボイスメッセージなど、現地から届く声を伝えます。



ほんのじかん

本をめくるひとときを、安田菜津紀の朗読とともに送ります。

2024年度最も聴かれた
Radio Dialogue



板橋拓己さん 「ドイツとイスラエル」

Radio Dialogue 147
(2024/2/14配信)

Radio
Dialogue
#147を聞く
Listen Now



SPECIAL EVENT

5周年イベント

Dialogue for People設立5周年記念オンラインスペシャルトーク

「何を伝え、なぜ伝えるのか」



出演者

安田 菜津紀 (左上)	D4P副代表／フォトジャーナリスト
アルティシアさん (左下)	作家
せやろがいおじさん (右上)	芸人
深沢 潮さん (右下)	小説家

設立5周年を記念して
スペシャルイベントを開催

2019年3月、都内の小さな会議室に有志が集まりD4Pは設立されました。その後、多くの方々からのご支援・ご協力をいただき、無事に設立から5年を迎えることができました。

D4Pではこれまでも「すべての人の基本的人権が守られ、さまざまな違いを超えて多様性が認められる世界」をビジョンに掲げ「伝える活動」を行ってきました。今回のイベントでは改めて「何を伝え、なぜ伝えるのか」をテーマに、さまざまな発信に携わるゲストとの対話をお届けしました。

イベントの前半ではフォトジャーナリストとして所属している安田菜津紀から、この5年間の活動をダイジェストでご報告するとともに、今後の活動についてもお話ししました。

後半からは、作家のアルティシアさん、芸人のせやろがいおじさん、小説家の深沢潮さんをお迎えし、「なぜ『発信』に携わろうと思ったのか」「立場が異なる人とのコミュニケーションの可能性の発見」といったテーマで、それぞれの経験や思いをお話いただきました。

この5年間で振り返ると、小さい組織ながらさまざまなテーマを取材し、国内外多くの場所を訪れ、そこに生きるたくさんの方々の声を伺い、発信してきました。そうした活動を続けてこれたのも、応援し支え続けてくれる皆さまのおかげです。これからの5年間もどうぞよろしく願っています。

イベント
レポートを
読む
Read Now



NEW PROJECT

新規プロジェクト

「加害の歴史に向き合うために」

各地に残る「痛み」に向き合い、記憶を継承するために。

太平洋戦争期、アジア各地で日本軍による侵攻や占領が行われ、おびただしい加害の傷跡を残しました。こうした日本の加害の歴史に関する取材・発信にさらに力を入れるため、2024年3月、新規プロジェクト「加害の歴史に向き合うために」を立ち上げ、支援を募りました。多くの方からの賛同とご寄付が集まり、同年6月、かつて日本軍により占領されていた東ティモールでの長期取材を実施することができました。本プロジェクトにより実現できた発信は、特集ページにて報告しています。



特集記事を
読む
Read Now



FREE MAGAZINE

フリーマガジン
VOICE OF LIFE



Vol.7 フィリピン

バタアン
「死の行進」と捕虜虐殺

日本の戦争加害を考える

1942年4月、日本軍の捕虜となったアメリカ、フィリピン軍の兵士が捕虜収容所への移送のため最長100数キロを歩かされ、多くの人が亡くなりました。日本軍の「捕虜観」、加害と被害の両面とは――。



Vol.8 パレスチナ

世界の無関心の傍らで

ヨルダン川西岸地区「占領」の実態

2023年10月以降、イスラエル軍によるガザへの凄惨な攻撃が始まり1年が経ちます。しかし、こうした惨劇は昨年突如始まったものではなく、同自治区・ヨルダン川西岸地区ではイスラエルによる占領や入植が続いています。

連載

2014年4月～	CAPA(ワン・パブリッシング)「ドキュメンタリー写真家のメッセージ」
2021年3月～	月刊「ヒューマンライツ」(部落解放・人権研究所)「言葉と写真で世界をみつめる」
2021年5月～	生活と自治(生活クラブ連合会)「対話する日々の中で」
2022年2月～	沖縄タイムス 連載
2023年4月～	新聞三社連合「社会時評」
2024年3月～	みんなのねがい(全国障害者問題研究会)「心に種をまく」
2024年6月～2024年11月	月刊「こどもの本」(日本児童図書出版協会)「世界で生きる子どもたち」
2021年8月～2024年2月	政治プレミア(毎日新聞)連載
2023年4月～2024年3月	朝日小学生新聞「世界との対話」

レギュラー

出演番組

月1回～	TBSテレビ「サンデーモーニング」コメンテーター
月2回～	TBSラジオ「荻上チキ・Session」コメンテーター
週1回～(2024年2月終了)	Amazon Exclusive『JAM THE WORLD - UP CLOSE』

数字で見る

D4P Web記事	65本	執筆	91件	イベント	4回
YouTube動画	59本	インタビュー／対談	20件	出版関連	1冊
講演	102件	写真／映像提供	17件	フリーマガジン刊行	2件
出演	50回	写真展	5件		

それはわたしが
外国人だから？

日本の入管で
起きていること

著／安田菜津紀
絵・文／金井真紀

ヘウレーカ
1,980円(税込)
2024年4月15日発売



日本の入管政策に翻弄されてきた、外国にルーツのある4人を安田菜津紀が取材。一人ひとりの生きた道のりをたどり、彼らがどんな困難に直面してきたかを、子どもにも伝わるよう平易なことばでまとめました(漢字にはすべてルビをつけました)。

イラストは、文筆家でイラストレーターの金井真紀さん。入管法や難民の人たちをもっと知るためのQ&Aや、金井さんによる「難民・移民フェス」についてのエッセイも収載。私たちに何ができるのかを考えます。

若手発信者

育成事業

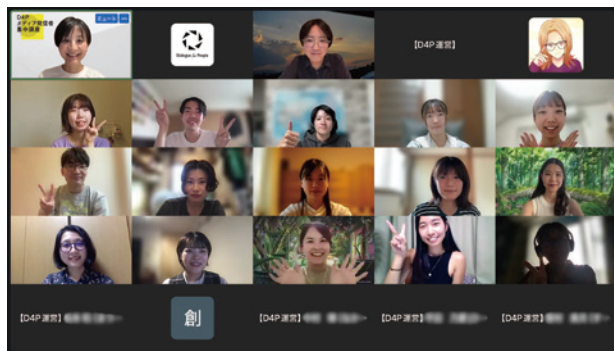
次世代と共に歩む

自分たちの世代だけではなく、未来を生きる人々のために何ができるか――

今を生きる私たちだけではなく、未来を担う世代へのバトンを継承していくことも、

Dialogue for Peopleの事業の軸のひとつです。

D4Pメディア発信者 集中講座2024



「伝える」ことの意味や影響、可能性について改めて考えるイベント「D4P メディア発信者集中講座」。今回で第4回を迎えました。今年の講座は対象年齢を引き上げ18歳～29歳までを対象としたほか、対面ではなくオンラインでの実施となりました。結果、社会人の方や、海外在住の方もいるなど、これまで以上に多様な受講生18名が参加し、学びを深めました。D4Pでは引き続き「伝える」を学ぶ機会を提供していきたいです。

受講生の感想

「伝える」ということへの向き合い方の多様さ、困難さ、自身の権威性に対する罪悪感の飼いならし方など、伝える現場に立っているからこそその肌感覚のような、具体的なものを学ぶことができ大変勉強になりました。

発信者として自分はどうあるべきか、権利の不均衡や人権侵害を決して許さない姿勢でなければならぬと改めて感じる講座でした。同世代の発信者の方との出会いもあり、自分にできることから始めようと大きな刺激になりました。

多角的な観点から学びが得られたこと、関心ごとが近く、お互いの意見を建設的に、安心して話せる方たちとの意見交換場があったこと、とてもよい学びの機会になりました。

ウェブサイトでもレポートを読む
Read this report on the website

「伝える」ことを通した、私たちのつながり
—「D4Pメディア発信者集中講座2024」開催レポート



プログラム

- 1 **「伝える」で大切にしたいこと**
講師：安田菜津紀
D4P副代表／フォトジャーナリスト
- 2 **発信前に、メディアの役割を知ろう**
講師：荻上チキさん
評論家
- 3 **難民について発信する**
講師：石川えりさん
認定NPO法人難民支援協会代表理事
- 4 **ヘイトスピーチと報道**
講師：師岡康子さん
弁護士・外国人権法連絡会事務局長
- 5 **性暴力に関する報道**
報道による二次被害と報道されない被害
講師：小川たまかさん ライター
- 6 **ドキュメンタリーの制作倫理と技術**
講師：久保田徹さん
ドキュメンタリー映像作家
- 7 **シェアリングタイム**
担当：徳田太郎さん
ファシリテーター



崖に落ちかけた車を近隣の村の人々が総出で引き上げてくれた。

道路が陥落し、車の通行は不可能な状態となっていた。

written by
佐藤慧

取材中のトラブルは、 戦禍や病気だけではない 交通事故とインフラの崩壊

世界各地を取材していると、さまざまなトラブルに見舞われることがある。もちろん、最大限安全に気を配り、特に戦地に近い場所などでは、現地の情勢に通じた信頼できる取材パートナーは欠かせない。けれど、危険やトラブルは何も戦地に限ったことではない。たとえば、病気。世界を覆ったコロナ禍は記憶に新しいが、日本では珍しい感染症や、慣れない水や食べ物による不調も侮れない。

もうひとつ、世界のどこであっても気を付けているのが「交通事故」だ。さいわい、これまで大きな事故に遭ったことはないが、もらい事故は完全に防げるものではなく、危機一髪、ということもあった。信頼できるドライバーとの協働や、整備された車両を選ぶことは基本として、どの道を通るかという判断も重要だ。それでも、取材先に行くためにはこの

道を通るしかない、ということもある。

東ティモールでの取材は、いつもそんな悩みがつきまとう。これまで何度か取材に行っている国だが、月日が経つごとに道路状況は悪化している。もちろん、首都近郊は「発展」を続けているが、都市部から離れた山岳部などの道路は、メンテナンスもなおざりで、「かつてあった道路がなくなっている」ということもある。

24年6月の取材でも、その道中が酷かった。例年よりも雨季が長引いたこともあり、舗装されていない道路はタイヤが半分埋まるほどのぬかるみだった。すぐ傍らは切り立った崖。しかし、他に道はない。現地に詳しく、運転技術もたしかなドライバーとともに向かうも、たびたび車はスタックした。なんとか難所を切り抜けたと思ったら、石畳の坂で横滑り

し、あやうく車体ごと崖に転がり落ちるところだった。周辺の集落の人々に助けられ、車を引き上げることはできたものの、この道を車で通行するのは危険極まりないということになり、急遽バイクタクシーで目的地へと向かい、無事取材を終えることができた。

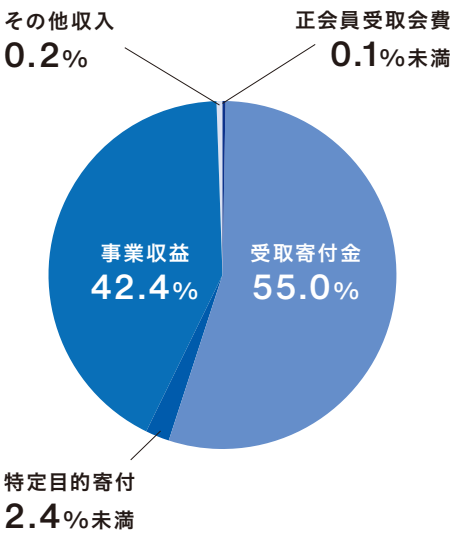
驚いたのはその帰路だ。通ってきた道はぬかるみが酷く通れない。もうひとつの道も、途中で何台もの車がスタックしているという。最後に残された道を目指すも、なんとその道は崩落しており、とても通ることができなかった。しょうがなく、車を残し（後日回収してもらうことに）、崩落した道を越え、またもバイクタクシーで悪路を進む。都市部に戻るまでにはさらなる悪路でトラブルがあったものの、今回のお話はこまewithとす。

しかしこうしたインフラの崩壊も、ポルトガルやオランダによる植民地支配、日本軍による占領、そしてインドネシア軍による軍事侵攻と無関係ではない。あらためて、戦争ほど日常を破壊する無益なものはないと感じる道中もあった。

会計報告

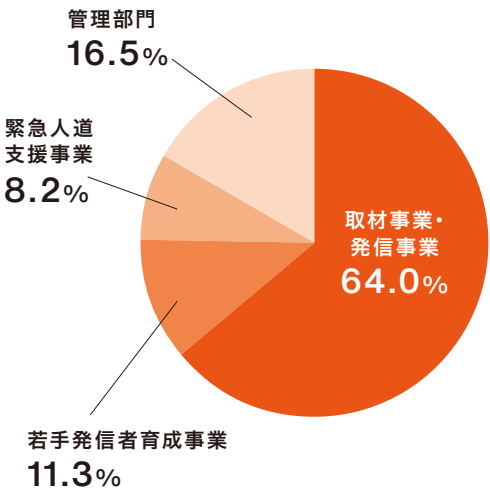
収入の部

項目	金額(単位:円)
正会員受取会費	54,000
受取寄付金	40,441,705
特定目的寄付	1,746,600
事業収益	31,181,271
その他収入	138,073
経常収益計	73,561,649



支出の部

項目	金額(単位:円)
取材事業・発信事業	41,581,159
若手発信者育成事業	7,322,700
緊急人道支援事業	5,306,780
管理部門	10,721,423
経常費用計	64,932,062



私共は、特定非営利活動促進法第18条に基づき、特定非営利活動法人Dialogue for Peopleの2024年度(2024年2月1日から2025年1月31日)の業務監査及び会計監査を行い、その結果、業務が適正に執行されており、会計について証拠書類及び関係書類は、記載すべき事項を正しく記載し、また支出すべて領収書等の証拠と合致していることを認め、ここに報告いたします。

※活動報告書および財務諸表の全体はDialogue for Peopleウェブサイトにてご確認ください。
<https://d4p.world/about/>

2025年4月9日

監事 石井宏明

監事 潤間拓郎

支援者のみなさんの声



左近 幸村さん

世界は私の想像をはるかに超えて広く深く、陰影に富んでいます。一方私の「関心領域」(昨年見た映画のタイトルを借用)は狭いの、魚眼レンズのように歪んでいます。機械ではないので、「正しい情報」を与られても、「正しい行動」を取るとは限りません。それでも、少しでも世界に対し誠実に向き合いたければ、D4Pが投げかける問いを受け止めながら、己の「関心領域」を不断に問い直していくしかないのだと思います。



茅野 由紀さん

いつからかD4Pの発信を意識し始め、徐々に気になる存在となり、今では自分の想いを確認する指針の一つにまでなっています。なぜそう思うのかなあ。大きな事柄だけでなく市民の目線で丁寧に伝えてくれるからか。忘れない、諦めない、考え続けることの大切さを感じるからか… それ以上の何かがありそうですが上手く言葉にできません。これからも、なぜD4Pさんの発信に魅力を感じるか、サポーターしながら考えて行きたいと思っています。

活動に協力いただいている団体のご紹介



株式会社LIFE.14(ライフ.フォーティーン)

イベントのオンライン配信や動画の撮影・編集など、D4Pの発信を届けるためにご協力いただいています。代表のアントニー・トランさんをはじめ、D4Pの活動への深いご理解とご支援に心より感謝申し上げます。

組織概要

名称	特定非営利活動法人Dialogue for People (ダイアログ フォー ピープル)	代表理事	佐藤 慧 / D4P事務局員
所在地	〒165-0026 東京都中野区新井2 -10 -3 KSビル202	副代表理事	安田 菜津紀 / D4P事務局員 中山 大輔 / D4P事務局員
設立	2019年3月23日	理事	石川 梵 / 写真家・映画監督 小澤 いぶき / 児童精神科医 在間 文康 / 弁護士
法人格取得	2019年5月22日	監事	石井 宏明 / 団体職員 潤間 拓郎 / 行政書士
認定取得	2022年1月7日 有効期間:2022年1月7日から2027年1月6日まで 番号:3生都管第1069号	事務局 スタッフ (2024年度)	有給職員:のべ7名 インターン:のべ17名

ご支援のお願い

「伝える」を「支える」ことから、 世界と「つながる」

国内外の取材、記事や動画の発信、自主企画の運営などのDialogue for Peopleの活動は、みなさまからのご寄付に支えられています。境界線を越えた平和な世界を目指すための、「伝える活動」へのご支援・ご協力をよろしくお願いします。

ご寄付のお申し込みはウェブサイトから

月々3,000円から始められる
マンスリーサポーター募集中！

Dialogue for Peopleは「認定NPO法人」です。
ご寄付は税控除の対象となります。

<https://d4p.world/donate/>



Dialogue for PeopleはSNSでも情報発信しています。



X(Twitter)



Instagram



Threads



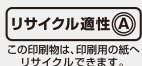
Facebook



公式LINE



YouTube



再生可能エネルギー100%で、印刷工場が所有する施設や車両、購入した電力などエネルギーの製造時に排出されるCO₂全量をカーボンオフセット(相殺)した「CO₂ゼロ印刷」で印刷しています。また大気汚染の原因物質であるVOC(揮発性有機化合物)を削減したノンVOCインキを使用しています。

表紙写真について

東ティモールの浜辺で遊ぶ子どもたち。かつてこの島の海岸線には日本軍のトーチカがいくつも並んでいた。(2024年/安田菜津紀)